

# これで安心!

8月17日から住民検診（結核検診）が行われています。家族みんなで受診し、健康な毎日を通しましょう。



## 今月の主な記事

- スポーツしてますか…………… 2・3 ページ
- ゴミ問題を考える…………… 4 ページ
- 昭和39年以來の豪雨162ミリ…………… 5 ページ
- サバイバルスクール'81行われる…………… 6 ページ
- いつまでもお元気ですか…………… 7 ページ
- 第2回町づくり見学会開催…………… 8 ページ
- 帰山せきさん亡くなる…………… 9 ページ
- ふるさと館ニュース…………… 10 ページ

# まぐろ

'81 (昭和56年)

356

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111  
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

9

# ツしてますか

皆さんは、何かスポーツをしていますか。健康な体をつくるためには、規則正しい生活と生活の中にスポーツを取り入れることが一番大切なことと言われています。そこで子供からお年寄りまで気軽に参加できるスポーツを二つ紹介します。家族みんなで参加してみませんか。

## 野や山が競技場……

# オリエンテーリング

オリエンテーリング（略称OLと言う）は、「みんなのスポーツ」と呼ばれ、だれでも参加できるスポーツです。

OLは、自然の山野が競技場で自分のペースで思う存分「走ったり、歩いたり」するスポーツです。健康・体力づくりにはもちろんのこと、地図やコンパス（方向磁石）を使用することから社会、理科、体育の学習の場としても役立つスポーツとして近年、非常に人気が高まっています。

OLの競技方法を簡単に説明します。「主催者が、自然の山野にセットしたいくつかのポスト（地図上に○印で位置が示してある）

を、定められた方法で地図とコンパスを使用して、できるだけ早くそれぞれのポストへ到達、通過してゴールする時間を競うスポーツです。

## ポイント OL方式を

OLには、三つの形式がありますが、幕別町で行われている「ポイントOL」方式について説明します。ポイントOLは、一人で走るのが普通ですが、日本だけが走るほかに「徒歩OL」、つまり三―五人のグループで歩くOLも取り

は、地図上に示されたポストを指定された順序に回り、スタートからゴールまでの所要時間で順位が決まります。

## ポスト通過 自分で証明

OL大会では、スタートの際に地図が渡され、ポストに到達したら、そのポストを通過したことを証明するために、ポストのそばにつるしてあるパンチで、チェックカードに自分で印をつけます。

OLに使用する地図は、縮尺が一万五千分の一の地形図で、道や川、建物といった、その区域にある特徴物の位置を正確に記してありますので、子供でも地図は読む

ことができます。OLは、定められた走路（コース）はありませんので、ルート（行程）は自分で考え進むようにします。ルートは、いくつかのチェックポイント（自分の位置が確認できる目標物）をつなぎ合わせたものです。



証明に使われるポストチェック

## 方向確認は コンパスで

ルートが決まると目的地へ向けスタートしますが、目的地への方

## 9月に全町 OL大会開催

―明野が丘コースで―

町教育委員会では、OLの面白さを知っていただこうと「全町オリエンテーリング大会」を九月二十七日（日）、明野が丘コースで行います。家族で参加してはいかがでしょうか。（参加申し込みなど問い合わせは、町教育委員会社会体育係へ（☎四一〇〇六）



自然の中を力いっぱい楽しんでください

# スポー



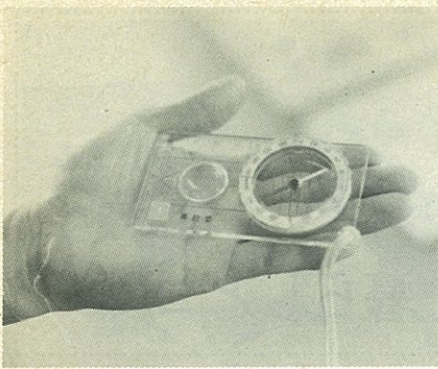
お年寄りたちの中で盛んなゲートボール

みんなのスポーツ……

## ゲートボール

角を知るためにはコンパスを使用します。このコンパスは、ラテン語でシルバーコンパス(森の磁石)と呼ばれ「分度器、定規、磁石」が一緒になった道具です。コンパスの使用方法は簡単で、小さな子供でもすぐにマスターできます。

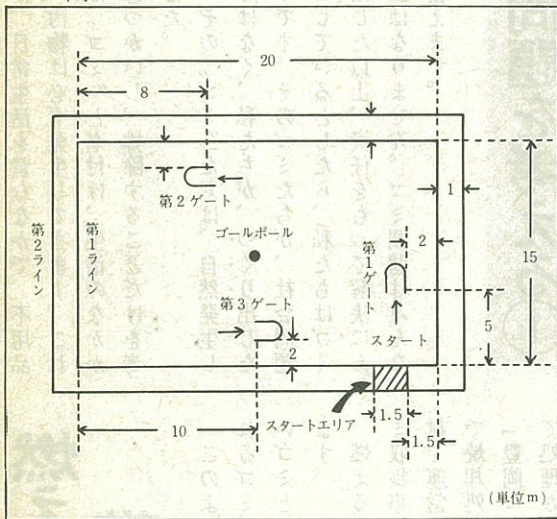
服装は、ハイキングスタイルで帽子は必ず着用しましょう。



子供でも使えるコンパス

子供からお年寄りまで幅広く楽しんでいるスポーツに「ゲートボール」があります。ゲートボールは、十七世紀頃フランスで発祥したクロックケーが発展し、昭和二十五年北海道で日本特有のスポーツとして生まれたものです。クロックケー競技とゲートボール競技の違いは、クロックケー競技の場合、六人が基本で個人または団体戦で行われ、時間制限がなく得点方法もないのに対して、ゲートボール競技は、十人が基本で五対五の団体戦で行われ、時間も二十五分間と制限があつて、得点方法もあることです。

図-1



町民生課では、お年寄りたちの間で楽しみな健康づくりの役に

立てていただくとう講習会を行っています。

競技方法をお知らせしますので地域みんなで楽しんでみてはいかがでしょうか。また、競技に必要な用具は、町教育委員会にありますので申し込みください。

### ■競技方法

- ① 一チームは五名とし、補助競技者は二名以内とします。
- ② 競技は二チーム間で行い、各五名の競技者交互に行います。
- ③ ジャンケンで先攻、後攻をきめ、先攻がきまれば赤の用具を使用します。
- ④ 競技場は、図-1のように定められています。

⑤ スタートエリア(図-1参照)に自球を置き一番の競技者から第一ゲートの通過を試みます。通過しないときは、次の打順が来るまで列の最後で待ちます。

⑥ 第一ゲートから順に第三ゲートを通り、上り球五点とし、各自最終の得点を以って各チームの総得点で勝敗を決めます。以上のように、誰れでも参加できる競技ですので、ぜひ地域で取り組んではいかがでしょうか。

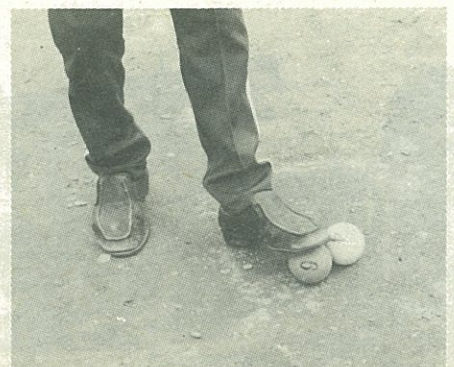
⑦ ゲーム中、自球が他球と接触することがあります。この場合、「スパーク打撃」が与えられます。

・スパーク打撃……自球を他球に触れさせ、自球の停止した位置を

基準として、写真のように自球を片足で押え、触れた他球を接触させ、自球を打ちそのショックで他球を飛ばすことを言います。

⑧ 自球がゲートを通過したときまたは、スパーク打撃の権利を生じたときは、何れも、もう一回自球を進めることができます。

⑨ 競技時間は二十五分間です。⑩ 得点は、第一ゲート通過球一点、第二ゲート通過球二点、第三ゲート通過球三点、上り球五点とし、各自最終の得点を以って各チームの総得点で勝敗を決めます。以上のように、誰れでも参加できる競技ですので、ぜひ地域で取り組んではいかがでしょうか。



スポーツは健康づくりに一番です。家族で楽しめるスポーツを生活の中に取り入れてください。



## ゴミ問題は みんなの責任

私たちが、日常生活を営むなかで、不用品や廃棄物、汚物は必ず発生してきます。これを私たちは「ゴミ」と名付け、生活のなかから邪魔者あつかいし、排除することだけを考えてきました。

しかし、その「ゴミ」たちは、自然発生してくるのではなく、私たちが、つくり出したものばかりです。そのゴミたちが、社会問題を引き起こしているとしたら、私たちはゴミをつくり出した以上、責任をもって解決にあたらなければなりません。ゴミ問題はみんなの責任と言えます。

### ゴミ問題を考える①

# 増え続けるゴミ

皆さんの家庭や職場などから毎日つくり出される「ゴミ」が、生活環境の破壊や町財政の圧迫など大きな社会問題となつてきています。そこで、今月号からシリーズで「暮らしとゴミ」を掲載し、皆さんとともに、ゴミ問題を考えていきたいと思ひます。

「暮らしとゴミ」第一回は、増え続けるゴミの量とその処理費用について考えてみたいと思ひます。皆さんは、一年間に町内でどのくらいのゴミが処理されているかご存じですか。

昭和五十年年度では、四千二百六十三トものゴミが処理され、五十三年度では五千七十九ト、五十四年度では六千五百四十ト、五十五

年度では七千八百二十二トと年々増え続けています。このゴミは、皆さんの家庭から出されるゴミ、俗に「消費クズ」と呼ばれるものと、事業所や商店から出されるゴミ（産業廃棄物）と大きく二つに分けることができます。五十五年度に処理されたゴミの量をそれぞれに分けてみますと、家庭から出されたゴミは四千二百二ト、事業所などから出されたゴミは三千六百二十トとなつています。さらに、これを一日当り（町全体）では二十一・四ト、また、皆さんの家庭から出されるゴミだけでは、一世帯当り（年間）八百六十九ト、一日当りでは二一・四トにもなります。

## 燃えるゴミは 帯広で処理

このように、町内でつくり出されるゴミは、燃えるゴミと燃えないゴミとに分けられ処理されています。

燃えるゴミは、パッカー車（ゴミ収集車）で集められ、一市五町村で運営している「帯広清掃工場」で焼却処理され、燃えないゴミは「豊岡ゴミ捨て場」へ運ばれ埋立処理されます。

## 膨らむ一方の 処理費用

昔、ゴミは、各家庭で処理されてきました。その後、町内に「衛生会」が組織され「ゴミ収集」が始められました。その時代、ゴミは、有料であり、ゴミをつくった人がお金を払い処理してきました。しかし、その後、町が「ゴミ収集」を行うようになり、

ゴミが無料となったのは、昭和四十五年からです。

ゴミ収集が無料となったことは処理に要する費用を直接皆さんから集めるのではなく、皆さんが納められた税金の一部を処理費用に使っているのが現状です。

皆さんは、皆さんの家庭などから出されるゴミを処理するのに、どのくらいの「お金」が必要かご存じですか。

五十年年度では、三千三百二万円、五十三年度四千六百五十万円、五十五年年度五千四百九十万円と、ゴミの増加とともに処理に要するお金も増加する一方です。これを一世帯当りで計算しますと、五十五年年度だけで、一万一千二百七円が使われたこととなります。すなわち、ゴミは無料ではなく有料であると言えます。

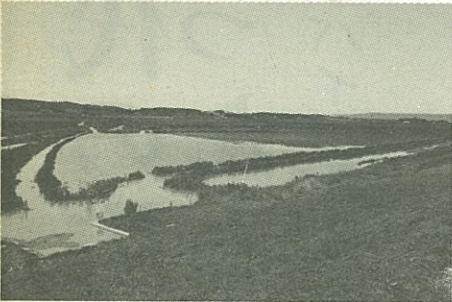


昭和39年以來の

# 豪雨162ミリ

## 被害額は13億円に

▼取り付け部分が崩れた千住14号橋



▲水につかった畑(新川地区)

路肩が崩れ通行不能となった古舞9線道路▶



八月四日夜から六日未明にかけて十勝地方を前線と台風十二号が直撃、幕別町においても百六十二ミリという昭和三十九年八月以来の記録的豪雨にみまわれ、十三億円を越す大きな被害を受けました。

町では、災害対策本部を設置し危険ヶ所の警戒と同報無線を使い雨量など状況を町民の皆さんに知らせてきました。

その結果、死傷者など人的被害はなかつたものの、床上浸水一戸床下浸水五戸、道路(路肩決壊など)二十六ヶ所、橋梁(取付け部分決壊)三ヶ所、山地崩壊三ヶ所農作物の倒伏三千五百八鈴、冠水

百九十五・六鈴、浸水二百五十・八鈴、馬一頭流失などの被害があり、本町の総被害額は十三億二千七万五千円にのぼりました。

現在、町では災害ヶ所の復旧に全力をあげています。



▲雨と風で倒れた小麦畑

## 災害と国税

—帯広税務署から—

震災、風水害、落雷、火災などの災害を受けたとき、所得税が軽減されたり免除されたりしますが、その方法として次の二つがあります。一つは「所得税法」に定める雑損控除による方法です。もう一つは「災害減免法」に定める税金の軽減免除による方法です。この二つのうちどちらか有利な方法を選ぶことができます。

申請方法など詳しいことは、帯広税務署(☎〇一五五―二四―二一六二)へお問い合せください。

## 健康カルテ ⑤

### 結核

八月十七日から町民の皆さん全員を対象に、結核検診が行われています。「健康カルテ」今月号は「結核」についてお知らせします。

結核は「不治の病」ではなくなりましたが、依然、現代の代表的な病気です。特に最近、患者が壮・老年層に多く、また、化学療法をはばむ耐性結核菌が登場するなど、新しい問題もでてきました。

結核による死亡は、昭和二十五年頃には国民死亡原因の一位を占めていました。昭和五十二年には十一位と結核による死亡は減つてはいますが、毎年、患者が発見されています。特に四十五歳以上では増加の傾向にあります。小児では、三百人に一人、青年では百人に一人、壮・老年層では二十五人に一人の割合で患者がいます。

結核は、成人病と違い、結核菌によって伝染する病気で一人が結核になれば、その周りの人たちにまで感染するという病気です。

また、結核は、治っても肺の働きが低下したり(肺結核)、体の運動が自由にできなくなったり(胃、関節の結核など)障害の残ることもあります。

医学が進歩し、検診や予防接種など、予防・治療技術も確立してきてはいますが、結核を軽く考えるのは大変なまちがひと言えます。

町民の皆さん一人ひとりが家庭や社会の中から結核をなくすよう、正しい健康管理に心がけましょう。

また、結核は空気感染ですので定期的にレントゲンによる検診が必要です。

町では、八月十七日から児童生徒、または官公庁、会社、事業所等に勤務している方、及び食品業者を除く全町民を対象に結核検診を実施しています。レントゲン車が各地域を回りますので、家族みんなで検診を受けるようにしましょう。

# 「開拓時代の生活は大変だったんだなあー」

## 「サバイバルスクール'81行われる」

町ふるさと館主催の「サバイバル・スクール」が、今年も八月一日から三日まで中里の糠内川付近で行われました。

「サバイバル」とは「生き残る」

町ふるさと館主催の「サバイバル・スクール」が、今年も八月一日から三日まで中里の糠内川付近で行われました。

「サバイバル」とは「生き残る」

参加者は、小学四年から六年生

初めてのワラジ



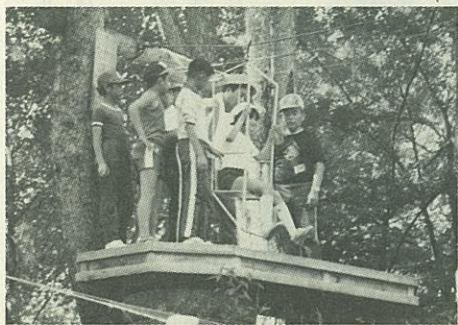
▶歩いて目的地へ



までの四十五人です。

一行は、町マイクロバスで目的地付近まで行き、バスを下りた後靴をワラジに履きかえ、川に沿って五百メートル、歩いて

目的地に向きました。初めて履くワラジに、痛そうに何度も立ち止



▲自然は遊びの宝庫だ

る子供もいました。

目的地での最初の作業は、七班に分かれ、三日間生活するための草ぶきの小屋作りです。ノコやナタを使い山から木を切り出し、カマを使って草を刈る作業に子供たちも真剣です。食事は、持ち寄った野菜や米を使って、子供たち自身が作ります。もちろん、ガスや電気はなく、石を積みカマドを作り火をおこし料理します。

昨年と違う点は、生活の中にこの村だけに通用する貨幣をつくり食事の材料も貨幣で買うようにしたこと。また、「自然の中で遊びの工夫」を学ぼうと、魚を捕まえるなど川遊びを体験したことです。

この三日間は、三十四度を越すこの夏一番の暑い日が続く、暑さでバテる子供もいて、日程の変更が行われたほどでした。三日間の生活を終え子供たちは



▲いなぎびご飯もおいしいね



▲三日間生活する小屋づくり

「開拓時代の生活は大変だったんだなあ。テレビやラジオがなくなり生活できたなあ。食事は貧しかったんだなあ」と感想を話していました。

テレビとインスタント食品で育った子供たちにとって、大きな体験だったと言えるようです。同じ文明社会に生きている私たち大人も「自然の中で生きていること」を、自然の大切さを共に考えてみたいと思います。



▲三日間で44人の友だちができた

# いつまでも お元気で

—65歳以上は1,864人に—

## 九月十五日は

### 「敬老の日」

六十五歳以上のお年寄りは全町で千八百六十四人います。これは総人口の八・八%になり、年々、高齢化社会へ向っているといえます。

また、全国的にも同じ傾向にある、三十四年後の昭和九十年には六十五歳以上のお年寄りが百人に十八人と予測されています。三十四年後、六十五歳になる人つまりお年寄りの仲間入りをするのは、現在、三十一歳の人たちです。よく言われる高齢者問題というのは、何もお年寄りだけの問題ではなく、若い人たちもやがて直面しなければならぬテーマであり、そして、社会全体の課題でもあると言えます。

九月十五日は「敬老の日」。また、十五日から一週間は「老人福祉週間」です。この機会に、お年寄りの幸せについて家族皆さんで考えてみるのも大切なことではないでしょうか。

### 敬老会に

#### 六百六十一人

「敬老の日」を迎え、幕別町でも、敬老会が九月十七日幕別町民会館で、十八日札内福祉センター、十九日糠内公民館で、それぞれ開催されます。

今年、該当（七十五歳以上の皆さん全員）される方は、昨年より五十人多い六百六十一人いらっしゃいます。また、八十八歳の米寿を迎えられた方は、次の十七人の皆さんですが、松田政代さん

（千住）は都合により写真を撮影することができませんでした。（敬称略）



福野 郁  
(緑 町)



敦賀 サナ  
(旭 町)



園部 ケイ  
(緑 町)



高橋 サギ  
(緑 町)



末吉 とき  
(西猿別)



脇坂 イト  
(相 川)



久保英太郎  
(古 舞)



斉藤 操  
(札内あかしゃ町)



安田 ふて  
(札内共栄町)



山田 アヤ  
(札内豊町)



小島仲次郎  
(緑 町)



高垣 累二  
(駒 島)



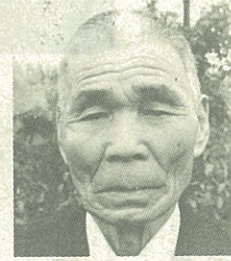
長瀬 きく  
(駒 島)



国枝 孝吉  
(中 里)



寺山 みよ  
(西糠内)



村田 辰雄  
(五位)

# 第二回町づくり見学会を開催

## 九月二十七日から三日間

昭和五十六年度第二回「町づくり見学会」を開催いたします。

「町づくり見学会」は、町民の皆さんに、より深く町づくりを理解していただくことを行うものです。第一回見学会は六月二十七日から四日間行われ、百五十人の皆さんが参加されました。

第二回見学会は、九月二十七日（日）から三日間行われます。今回は「生活環境と町づくり」をテーマに、豊岡ゴミ捨て場、帯広清掃工場などを見学します。多数ご

参加ください。

### ●開催日

九月二十七日（日）… 勤労者の方を対象に・定員五十五名

九月二十八日（月）… 婦人・お年寄りの方を対象・定員二十五名

九月二十九日（火）… 同・定員五十五名

いづれの日も午前九時三十分から午後二時三十分まで

### ●申込み方法

九月一日発行の「おしらせ」に参加申込書が印刷されています。

その申込書に必要事項を記入し、

九月十五日までに役場総務部町民課広報聴係か札内支所、楳内、駒島出張所へ申込みください。

### ●参加料 無料

### ●その他

見学コース、集合場所など詳しいことは、参加者に後日連絡いたします。

なお、見学会の詳しいことについては役場総務部町民課広報聴係までお問い合わせください。（☎四一二二一・内線一一一）

## 注意に販売の信問

相談は十勝支庁消費生活相談窓口か町経済部開発商工課まで

和五十五年度だけでも同相談所が受付けた相談件数は二千九百八十二件ののぼり、年々増加の傾向にあります。

相談内容の主なものは、通信販売の場合 ①届いた商品のイメージ、品質、性能が違う ②商品の到着が遅れる、届かない ③アフターサービスが悪い、などで、また、訪問販売では、①「教育委員会」からきたといつわり、教材を売りつける ②福祉の名を使って粗末なものを売りつける ③身元の不明確な販売、などです。

最近、訪問販売や通信販売による問題が増えています。

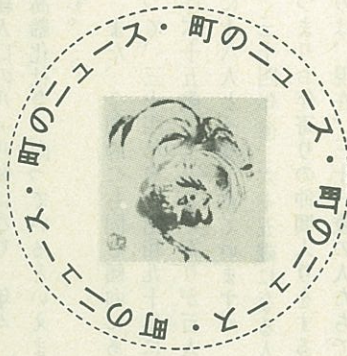
道が設置している「消費生活相談所」のまとめによりますと、昭

を確かめることが大切です。

もし、すでに通信販売や訪問販売によるトラブルで悩まれている方、または、トラブルが生じた場合は、十勝支庁の「消費生活相談窓口」か、役場経済部開発商工課労政係（☎四一二二一・内線二二三）へご相談ください。



旭町・幸町連合盆おどり大会が八月十日、旭町三角公園で行われました。盆おどりの後、子供たちは、花火をプレゼントされ楽しいひと時を過ごしました。



「NHK夏期巡回ラジオ体操」が七月二十九日、幕別小学校グラウンドに全町から二千人が参加して行われました。ラジオの生放送とあって、リハーサルが午前六時から行われ、ラジオで同じみの体操の先生も来町しました。



、ふるさと二万人参加の盆おどり大会が八月十五・十六日の二日間行われました。審査の結果、団体の部で十勝葉山電器チームが、個人の部では森田栄子さん（寿町）森脇栄考さん（同）組（写真）が優勝しました。



## 団員募集中

— 幕別混声合唱団 —

幕別混声合唱団（団長・大上光一さん）では、いま、団員を募集

しています。練習は、毎週木曜日午後七時三十分から町民会館で行っています。入会したい方は、事務局・井沢法子さん（☎四一三〇〇二）まで。



# 十勝管内一長寿の 帰山せきさん 亡くなる



元気な頃の帰山せきさん  
(昨年9月)

明治十一年一月六日に生まれ、今年満百三歳を迎え十勝管内一長寿の帰山せきさんが、七月二十九日亡くなりました。

帰山さんは、十九歳で福井県か

ら開拓農家の一員として千住地区に入植。夫の末吉さんと開拓のクワをふるいました。三男五女の子宝に恵まれ、やしやご(玄孫)まで六十八人の子孫がいます。

七年前は畑にも出るほど元気でしたが、ケガをして床についてからすっかり足腰が弱り、最近は、寝たきりの毎日でした。亡くなる十日ほど前から急に食欲が衰え、毎日医師の往診を受けていましたが、二十九日午後零時二十分ごろ家族に見守られながら、亡くなりました。

## 古いマチの 写真を集めて います

町では、マチの古い写真を集めています。

昔、畑だったところが、い

まは住宅街となつていたり、時の流れとともに、マチの姿も変わります。そこで、マチの正確な姿を将来に残そうと準備を進めています。明治・大正・昭和初期頃の写真が少なく、町民の皆さんの中に古い写真をお持ちの方はぜひ連絡ください。

連絡先は、役場総務部町民課広報広聴係(☎四一二二一 一 内線一一一)まで。

## 自衛官を募集

自衛隊では、ただいま国を守る若い力、自衛官を募集しています。募集しているのは、二等陸・海・空士、一般曹候補生、航空学生、防衛大学校学生で、それぞれの募集内容は次のとおりです。

希望される方は、自衛隊帯広地方連絡部(電話〇一五五―二二一五八八二)または、役場町民課へおたずねください。

### ■二等陸・海・空士

▽資格・十八歳以上二十五歳未満の男子  
▽受付・常時  
▽試験毎月  
▽採用・おおむね毎月

▽実質賃金・十二万九千八百円(俸給月額八万八千四百円十現物給与額四万一千四百円)  
▽技術教育(車輛・通信・航空機・艦船等)で各種国家免許取得の機会があります。

### ■一般曹候補生

▽資格・高卒(見込み)の十八

## 寄付者のお名前

### ■町へ……

▽吉田貞子さん(相川)から夫が生前お世話になりましたと五万円

### ■町社会福祉協議会へ……

▽宗岡フクさん(札内中央町)から病気全快を祝って五万円  
▽宗教法人普明会教団高岡支部(富

歳以上三十歳未満の男子  
▽受付八月～九月  
▽試験・十月上旬  
▽入隊・五十七年三月下旬

### ■航空学生

▽資格・高卒(見込み)の十八歳以上二十歳未満の男子  
▽受付八月～九月  
▽試験・十月上旬  
▽入校・五十七年四月上旬

### ■防衛大学校学生

▽資格・高卒(見込み)の十八歳以上二十一歳未満の男子  
▽受付・十月  
▽試験・十一月上旬  
▽入校・五十七年四月上旬



山県)から五万円  
▽帰山ユキさん(千住)から母が生前お世話になりましたと二万円  
▽島田ミサさん(千住)から母が生前お世話になりましたと二万円

### ■老人クラブへ……

▽宗岡フクさん(札内中央町)から札内老人クラブへ五万円  
▽佐藤信一さん(札内稔町)から札内老人クラブへ二万円  
▽高井松

市さん(明野)から明野新川長寿会へ五千元

▽金沢幹彦さん(札内中央町)から幕別老人クラブへ三万円

▽帰山ユキさん(千住)から札内老人クラブへ三万円  
▽島田ミサさん(千住)から札内老人クラブへ二万円  
▽佐藤幸男さん(美川)から美川老人クラブへ二万円

▽七島信雄さん(明野)から明野新川長寿会へ一万円

▽山田久一さん(美川)から美川老人クラブへ三万円  
▽内野兼佳さん(西猿別)から西猿別老人クラブへ一万円

■身体障害者福祉協会幕別支部へ……  
▽匿名の方から三千八百円

## 車いす二台を寄付

### ―町料飲店組合―

町料飲店組合(千葉幹夫会長・五十五店加盟)では、先に「チャリティー・樽生飲み放題」を開催いたしました。その益金で車いす二台(十五万円相当)を購入、町へ寄付されました。



大石町長に車いすを手渡す代表の皆さん



幕別町ふるさと館

〒089-05 幕別町字依田384-3 ☎(01555)6-311  
AM9:30→PM6:00 毎週火曜日休館

# 戦争と暮らし

## 第5回特別展 ● だれもが、戦場は、いつも海の向こうにあるのだと信じていた

戦争は、ある日突然やってくるのではない。ゆっくりと民衆の気がかぬうちに忍びよってくる。

戦場は、いつも海の向こうにあるのではない。しかし、人々は、戦場は海の向こう、少くとも自分の町ではないと決めている。

終戦から三十六年、多くの尊い命・財産・自然・文化を失った体験が薄れつつあるといわれる。

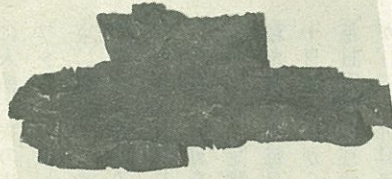
幕別には「軍岡」という地名が

### 第三の水槽、10月4日にお目見え

#### サンシヨウウオやザリガニを観察しよう

第三の水槽が十月四日にお目見えします。館内中央のジャンボ水槽にはサケ科の淡水魚、小型水槽ではサケの人工海水飼育、そして第三の水槽にはザリガニやサンシ

ヨウウオを飼います。新しい水槽はアクリル製で、幅180×奥行90×高さ45cm。スタッフの手で冷却器やろ過槽を取り付け、合成樹脂で隠れ場所や甲羅干



止若に落ちた爆弾の破片 / 東常念さん(寿町)所蔵

あります。太平洋戦争中に、軍が飛行場に接収したことから、このような名がつけられました。

札内神社の横に大きな石碑があります。これは、私たちの町から出征し、再びふるさとの地を踏むことができなかった兵士たちの標です。

最近、道内各地で「空襲を記録する会」などがさかんに活動し、住民自身の手で民衆の戦争被害を記録しようとしています。幕別も空襲をうけ、負傷者も出たという事実を知っている人は、いったいどれだけいるでしょう。

戦争体験が次第に薄れつつあるといわれるこの頃です。戦後三十三年も過ぎると体験者が少なくなるのも自然のなりゆきとも思

し場所を作って、出来上がりです。取り付  
十月四日(日)の開館二周年記念の日に、ザリガニなどを子供たちの手で水槽に入れます。また、この日は第四回幕別産業まつりも行われます。ふるさと館でもたのしい企画をたくさん用意します。(くわしくは次号で発表)

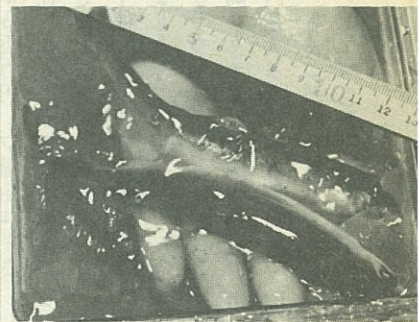
## サーモン通信⑪ 人工海水のサケ、全滅

水槽でサケはどこまで育つのか? みんなの興味と期待の集まる中、ふ化から数えて24日まで生き続けました。7月27日夜から翌28日朝までの間に、折からの暑さもあって水温が7℃上昇したため、サケ、サクラマス、3配種が全部死んでしまいました。

サケの最も大きいのは15.5cm・34g ありました。サケの水槽飼育は、3年・40cmという記録があります(小樽水族館)

現在、淡水で飼育していた稚魚を人工海水に順化させようと、毎日少しずつ濃度を高めている際中です。

これまで得たデータをもとに、ことし狙われる親ザケから産まれる卵で、またサケの人工海水飼育に挑戦します。



元気だった頃のサケ(7月10日撮影)

えます。しかし、十五年も続いたこの戦争で失われたたくさんの方の命・財産・自然・文化を考えるならば、この忘れ去られようとして

ている戦争体験を見過ごすことはできません。さまざまな資料や統計を通し、数多くの体験を通して、当時の人

連載  
第20回

## 幕別ものがたり

「ハーハーッ、ハーハッ」  
冷くなった指先を、ぼつこ手袋の上から両方の手にかわるがわる、まっ白い息をはきかけながら少年は、止

若かの市街を一軒一軒ていねいに戸口にある牛乳箱のふたをあけ、空ビンを取り出し今朝暗いうちから搾った牛乳の入ったビンを入れていった。

大寒に入ってから朝早くふとんの中からぬけ出すのはとてもつらいことだ。鼻から空気を吹込むと、そのたびに鼻の穴がぐくつく。それでも少年は、背中に汗をかきながら、冷たい牛乳ビンをかかえて走る。明野の丘の上の空が白み始

## 64年前から 牛乳の宅配があった

消費量が極端に少ないことから、大正に入ってからはずか数頭に減った。このことから、少しずつ牛はホルスタイン(乳用)にかわったが、依然として大正時代は少なく、幕別の牛が千頭を突破したのは昭和十一年(一九三六)のことである。

大正六年(一九一七)、中川文太が福家牧場その他から乳牛を買い求め、止若市街で一日およそ百二十本のビン詰牛乳を販売した。同じ頃、帯広で依田勉三の経営する成(マルセイ)牛乳販売所で、牛乳の宅配を行っていたのが、若き日の稲葉嘉一であった。

(文・小助川 勝義)

味は大きいといえます。毎年、夏にこの特別展を開く予定で、ことしはその第一歩として取り組みました。今回の特別展には、止若(現在の幕別市街)が空襲をうけた際の爆弾の破片、千人針や寄せ書き、軍隊手帳、戦時中の雑誌広告など約八十点の資料を展示しました。最後になりましたが、この特別展開催にあたり、貴重な資料を提供、また、体験談をお聞かせください。さつたまなさんに心からお礼申し上げます。